

月見櫓跡

本丸の周囲は互いに機能しあう 11 の櫓に囲まれており、主要な物には名前がついていた。櫓には武器や火薬やほかの用具が保管されていたが、見張り台としての機能も有していた。櫓のそれぞれの場所から高さ 30m の城壁が見渡せ、玉造門や青屋門から入ってくる誰をもはっきりと確認することができた。

1868 年 1 月に戊辰戦争（1868-1869）が起きたときに、この櫓も城の他の場所とともに消失した。誰が何のために火を放ち、城に損害を与えたかは不明である。明治天皇（1852-1912）に忠誠を誓った新政府軍が大阪に近づいたとき、最後の将軍徳川慶喜は大阪城を放棄し江戸（現在の東京）へ逃げかえった。信頼できる家臣と上級武士だけを伴ったの逃避行であった。その後動乱と略奪が起き、守る者がいなくなった大阪城は何か所で火災が発生した。